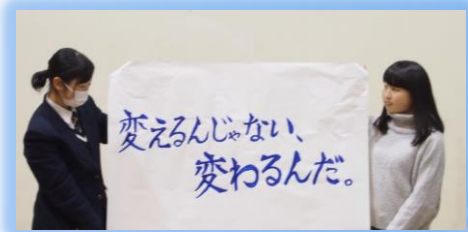


広島創生イノベーションスクール 第6回全体スクール

授業記録



平成28年12月25日～27日
福山少年自然の家

チームB feel

広島県立安古市高等学校

広島県立
広島国泰寺高等学校



広島県立
三次高等学校



広島県立吉田高等学校



広島大学附属高等学校



広島県立広島観音高等学校



広島市立広島工業高等学校



チームA KFS's



海外派遣
研修生



事務局スタッフ



NPO・
社会人・
大学生
メンター



広島県立広島高等学校



チームC KKS homes

広島県立
呉三津田高等学校



広島県立西条農業高等学校



広島県立福山明王台高等学校



チームD レ点

広島県立
尾道北高等学校



尾道学園尾道高等学校



ワークショップ 講師



東北スクールOB/OG



大学生スタッフ



リディラバ ワークショップ

一般社団法人リディラバ安部代表理事

●リディラバ(Ridilover)とは

リディラバとは、「バカバカしいことが好きな人」を意味するそうです。代表の安部敏樹さんが大学3年生のときに設立しました。社会問題を取り上げたスタディツアーを展開している一般社団の法人です。

代表の安部さんは、とてもエネルギッシュな方でご自分の体験をもとに、高校生に社会問題にかかわることの意義や生き方について、熱く語りかけてくださいました。

●社会問題を解決できないのはなぜだ？

安部さんは、中学時代「社会問題を解決できないのはなぜだ？」と考え、次の3つの壁を取り払いたいと考えました。興味・関心がない「**関心の壁**」、情報が一括化されていない「**情報の壁**」、問題が起こっている現地に行くすべがない「**現場の壁**」。

●解決するために…

解決するためのユニークなコンテンツとして、町づくりに生かすツアー、環境保全について考えるツアーを考案し、「社会の断絶」をつなぎ合わせることに取り組みました。

●これからの私たちに必要なこと

また、これからの時代はロボットではできない、人間にしかできないことが大切になってきます。

- 問いをつくること、課題を設定すること
- 共感すること
- 他者との協働の中で調整すること

●成功するために

安部さんは、**成功する人の条件**として次のことを挙げました。

- 「挑戦する人」「自分の課題を見つけられる人」
- 「次につなげられる人」「仕事に対して情熱を持っている人」
- 「人の話を聞ける人」「人をひきつける人」「自分の気持ちに正直な人」
- 「危機感がある人」「相手の立場に立って考えられる人」
- 「できない人の気持ちを考えられる人」「常に進化を求める人」「粘り強い人」
- 「がむしゃらな人」「人に助けを求められる人」「自分の弱いところを見せられる人」
- 「長期目標をやり抜く人」「自分の力を信じてしつこく進んでいく人」…

そして、次のことをモットーに

- ①現場に行こう
- ②問いを立てよう
- ③チームで協働しよう
- ④今もってない専門性を考えよう
- ⑤しつこくやろう

●ワークショップでのグラドルール

安部さんは、よいチームにはよいグラドルールがあると示してくれました。

- 議論に積極的に参加すること
- 属人的な議論(一人が○○というとなみんな○○という)ではなく属事的な議論をすること
- 発言の意図を明確に
- 「準備不足でした」と言い訳しないこと
- 「そんなことは無理だ」と言い訳しない。 やってみること
- 自分ができていなくても、批判をする。エースに文句が言えるチームづくりが大切

4原則

- ①共通理解(ルール)とマインドセット
- ②技法の共有
- ③進捗状態と議論の共有
- ④意欲

ブレインストーミング4か条

- 批判厳禁(今は拡散のとき)
- 自由奔放(現実性など気にしない)
- 質より量(とにかくたくさん)
- 人のアイデアをパクる(結合改善)

チームとしての思考

拡散・収束,
プレゼンテーション,
ライトニングピッチ,
ディスカッション

KJ法の流れ

- カードの作成
(1つのデータを1枚のカードに)
- グルーピング
- 「図解化」「叙述化」

●チームビルディングのポイント「共有」

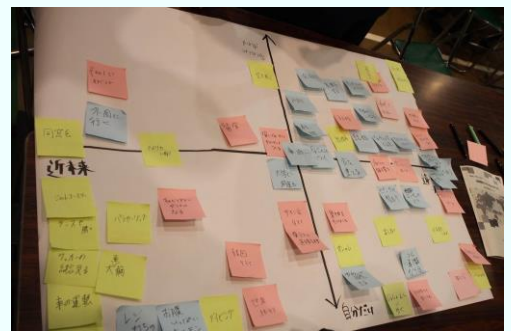
○ルールの共有, ○メソッドの共有, ○文化の共有, ○情報の共有

●ワークショップ開始！！

学んだことをもとに、実際にワークショップを行いました。

テーマ① ペットボトルの使い方

テーマ② 「死ぬまでにやってみたいこと」→時間軸と関わる人の軸で分類



●最後に…

安部さんは、最後に「自分にとって勉強とは？」について語ってくださいました。
勉強とは自分で課題設定をして解決していくこと。知識とは、リスクを見積もるもの。
リスクがわかり、知識があれば、チャレンジできる!!

2016/12/25
エリア活動報告会

エリアA

◎翠町町民作品展への協力

今後：子供と地域のつながりを重視した活動をどんどんやっています！

課題：活動をどのように受け継いでいくのか、誰がつなげていくのか



エリアB

◎トナカイフェスの実施

学び：マネージメント能力、
コミュニケーション能力、
全体を見て動く力、積極性、
期限を守ること

課題：広報で自分たちの活動をもっとアピール



エリアC

◎ワークショップの企画案作成

トナカイフェスに参加した感想：それぞれ自分の役割をきちんと責任もって果たせている姿を見て刺激を受けた。

エリアD

◎広島里山ソーシャルカフェに参加

フリーペーパー「ひろしゃま」とコラボ

◎カッテデミー賞

第1号の配付，読者アンケートの実施，
第2号の検討

今後：カッテデミー賞第2号の配付とSNSの充実



2016/12/25
OECD東北スクールOB・OG

○東北スクールの概要

2013/03～2014/08（2年半）

メンバー

東北の9つの地域から（大阪・奈良からも）
（福山大学+OECD+中高生100人）

草野みらいさん
白石春奈さん
中村誓人さん
根本季安奈さん

2014/08/30.31

「東北復幸祭 “環” in PARIS
—死と再生、未来へつなぐ—」inパリ

来場者数：149,664人

9つの地域ブースに分かれて発表

ここで何を
伝えたいかを
軸に進められた

○グローバルスクールを進めるにあたっての鍵

- ・何を発信したいか
- ・コンセプトが、あることをやるべきかやらなくていいのかの判断基準になる
- ・大人にうまく頼ること

○東北スクールで得たもの

- ・スクールを通して、映像の伝える力に魅かれて、将来のやりたいことになった。
- ・いろいろな人に出会えるチャンスがたくさんあった。
- ・教育、対人コミュニケーションの関係を学んだ。
- ・社会の流れ方を学べたこと、自分の地域にも触れ合えたことがよかった→のちに地域ツアーを作れた。

チャンスの神様は前髪しかない
チャンスをつかむべきタイミングで
つかめるかが鍵!!

東北スクールOB・OGへのQ&A

- Q,** 受験勉強もO E C Dも精一杯頑張りたい。
どうしたらどちらもやりきれるか。
- A,** スクール活動はチームで支えあえばやり切れる！
仲間がいっぱいいる。親にはパッションで説得を頑張ってください。
- Q,** 大学入ってから、将来の生き方は見つかりますか？
いい大学に行けて親に言われるけど、やりたいことがまだ見つかってないのに、大学に行ってもなあ。
- A,** いい大学をどういう基準で見るかにもよるけど、いい大学っていうのはある分野における面白い人間のいる率の高さではないか。
- Q,** 留学したいけど留年することになる。それでも留学したいのですが、どうしたら説得できますか？
- A,** 今の場に居続けることが成長につながるのか、大事なことなのか、またはよくないことなのか。
自分のやりたいことをやることが成長につながるのかどうなのか、その辺りの見極めがとても大切になってくる。



グローバルスクール企画① テーマ決定 ~エリアA・C~

エリアA

★テーマ発案にあたって

①盛り込みたい要素を考える

未来、愛、地元、高校生、縁、
つながり、協力、平和、地方創生、
発信、集大成 など



②テーマを決める

エリアAが提案した最終的なテーマは…

好きですか？地元
~気づくと色づく世界と未来~

エリアC

★テーマ発案にあたって

①盛り込みたい要素を整理する

- ・イベントの内容よりイベントのコンセプトがわかるもの
- ・伝えたい内容
- ・繋げる・平和
- ・あなたの大切な人

②テーマを決める

エリアCが提案した最終的なテーマは…

広島から世界へ伝えるメッセージ
~あなたの大切な人は誰ですか~

グローバルスクール企画① テーマ決定 ~エリアB~

○キャッチフレーズに用いたいキーワード集め

→形にした想いを発言する

Ex. ・むすぶ ←結ぶ

- ・ 変える・変わる ←変えたら変わっている
- ・ KYO-DO ←今日する、共同・協働・協同、郷土
- ・ smile
←笑顔を大切にしたい、つなげていきたい

細かいことに目を向けることも大切。
Feelで今まで何をしてきたかを振り返ってみて、辞書にない言葉を作り出してごらん。

○テーマ=キャッチフレーズの案を出す (30分)

- ・ **広島弁を入れたら広島感出る。**

「広島変えようと思っとんじゃけど」

「高校生の力、見ときんさいよ」

高校生→うちら（高校生が主体となってやるから）

「広島と世界、変えようと思っとんじゃけど」

⇒ 広島→なし（広島から変えていくなら、抜いてもいい）

（最初に出した案の中から、ピックアップしながら話し合いスタート）

Feel感がほしい。
Feel = 気

「KYO-DO」だけでは私たちの今までの活動が含まれていない

全体の目標だから、Feel感がなくてもいい

Feel感はKYO-DOにこめたつもりだった

生徒の感想

- ・ 世界という規模がでかすぎてつかめない
- ・ これから変わっていくんじゃない？
- ・ ...なんかしっくりこないなあ

「世界を変える」というより「イノベーターの育成」を私たちはやってきた。

結果

「Let's KYO-DO
~うちら、世界変えようと思っとんじゃけど~」

グローバルスクール企画① テーマ決定 ~エリアD~

1. いろいろなキーワードを書きだす

＼ブレインストーミング／

まずは自分の考えをポストイットに書き出していきました。

誰かが出して、似たような意見があったら貼る（収束的思考）

**未来，協調，協働，地域のために，伝える，
一丸・団結，主体性，全ての人を巻き込む，
若者・高校生，平和，世界...**

今出た意見をもとに，新たに思いついた意見があれば貼る

（拡散的思考）

まとめる（収束的思考）

2. 選んだ単語をもとにキャッチフレーズを考える

こういうのをキャッチフレーズにしたいというアイデアを考える

各自発表

多数決で決める→なぜそのフレーズにしたのか，フレーズを考えた人は発表する

3. ワールドカフェ方式

他のエリアでの様子を視察

4. 元のグループに戻ってブラッシュアップ

みんなに分かりやすく伝えるためにはどうしたら良いか

ワールドカフェより得たことの共有

5. テーマ案 決定

**世界を巻き込め
未来へつなげろ
イノスク大旋風**



グローバルスクール企画① テーマ決定 ~リーダー会~

1. キャッチコピーに求められるものは...

全体会の間に決定できなかったキャッチコピー。リーダー会にゆだねられることになりました。そこで、基本に立ち返り、そもそもキャッチコピーに求められることとはどんなことか確認することに。

- 親しみ、インパクト、一瞬で伝えられるものに
- 広報物(チラシ、パンフ)にしたときの分かりやすさ
- ひと目でわかる、すっきりしたもの
- みんなが今までやってきたこと、伝えたいこと
- 英訳しやすい ● 夏までの心の支え ● 身近な問題を感じられるように

2. 各エリアの活動テーマから共通項を見出す

エリアA 地元愛を育み、帰ってきたい地域づくり

エリアB 次世代のイノベーター育成&都会と田舎をつなぐ

エリアC いつでも帰ってこられる故郷を未来のために。

エリアD 地元で頑張っている人を若者に発信

共通する
キーワードを
基に考える

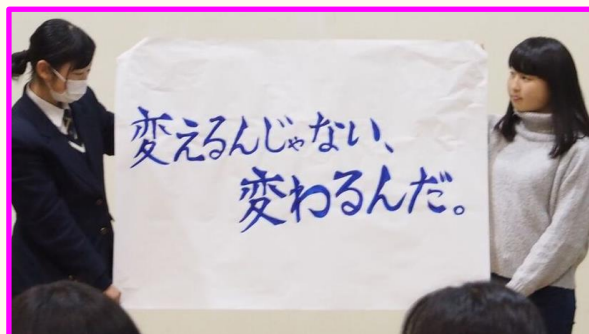
3. これまでの議論を踏まえ、新たにつくってみる

これまでの議論を踏まえ、リーダーが新たにキャッチコピーを作成し、練り直した案を最終的に投票で決定しました。

決定したキャッチコピーがこちら



最終日にリーダーから全員に説明を行いました。



4. ロゴもつくろう！

発信するにあたって、キャッチコピーだけでなく、ロゴも効果的だというアドバイスを受け、ロゴも作成することになりました。リーダー会で出されたデザイン案を受けてメンバーの下宮さんが、作成してくださいました。

地元⇄世界

~未来へのチケット~

変えるんじゃない、
変わるんだ。

海外協働チーム「共同宣言」 グローバルスクール企画案作成

☆共同宣言を考えるにあたって

①目標

「政策決定者が高校生と協働しようと思えるような共同宣言をする。」

②対象

政策決定者

・共同宣言の意味とは？
・本当に伝えたいことは？
目標をもう一度
確認し直すことに！



☆目標を再確認するために

目標

「政策決定者が高校生と協働しようと思えるような共同宣言をする。」

- ・共同宣言
= 広島クラスターとパートナー校で共同
- ・政策決定者が高校生と協働
= 高校生主体の活動に 共感し支援してほしい



海外協働チーム「共同宣言」

企画案共有 & フィードバック

☆共同宣言作成のために

①実際に一人一人書いてみる

→メッセージを込める難しさ



②気づいた点

- ・効果的な書き方をすべき
- ・ありきたりな内容にならないようにする
- ・具体例を述べて説得力を出す など

③企画案共有

コメント **メッセージの内容が何よりも重要**
何に共感してほしいのかを明確に！

④共同宣言に込める内容を決定

- ・自分たちが HISを通して感じた成果と改善点
- ・HIS終了後のアクションプラン
- ・若者に与えられるべきチャンス



県民文化センター

グローバルスクール企画案作成

☆企画を考えるにあたって

①目標

「興味がある人に、グローバルの視点で自分たちの地域をよくしていこうと思ってもらうために私たちのプロジェクト内容を共有する場をつくる」

②目的

「自分の地域をよくしていこうと思ってもらうために。
プロジェクトを知ってもらう」



- 1, 体験, 共有してもらう
- 2, 世界につながる
- 3, 活動について理解してもらう

この3点から内容を広げる

③対象

- ・興味がある人
- ・大人
- ・子供
- ・広島県民
- ・旅行者



県民文化センター

企画案共有 & フィードバック

☆各企画の内容

①大人ワークショップ

対象:一般の方, NPO

目的:つながりを意識するために

概要:一つのテーマについて深くディスカッション

②しゃべり場!

対象:外国人生徒, 海外に興味のある人

目的:学びの共有

概要:地元の課題を再認識し, 自分ごととして考えてもらう

③映像

対象:若者(中・高・大学生), 大人(先生, 協力者)

目的:HISを通しての自分たちの成長を発信する

概要:若者の力を感じられる内容

④クイズ

対象:小学校低学年

目的:2030年の未来を意識してもらう

概要:ハワイの経験を生かしたクイズ



県民文化センター プロジェクトチームごとの活動

☆これからチームで進めるにあたって

①4つの企画を全て行うのか

- ・メンバーの人数に対して、企画が多すぎないか。
- ・今の段階で、内容を絞るのかどうかを検討した。

②使用したい部屋の確認

- ・人数や広さ、部屋の雰囲気が目的にあっているかどうかのすり合わせ。

③スケジュール確認

- ・お金、人員、時期、使用するものについて現段階でわかるものの確認。



シャレオPJTチーム

グローバルスクール企画案作成

☆イベント企画を考えるにあたって

①目的

スクールでの活動の成果，広島の魅力・世界の国や地域の魅力を発信することを通して，2030年に向けてよりよい未来をつくることの大切さを伝える。

②対象

シャレオを歩きかう人々。特に，自分たちと同じ世代や若い人々をターゲットとしたい。

③企画案の作成

ステップ1 グループに分かれて，アイデアを出し合う

どんなイベントを行うか，3つのグループに分かれてアイデアを出し合うことになりました。みんなで一生懸命考えて，出した案はなんと次の7つです。



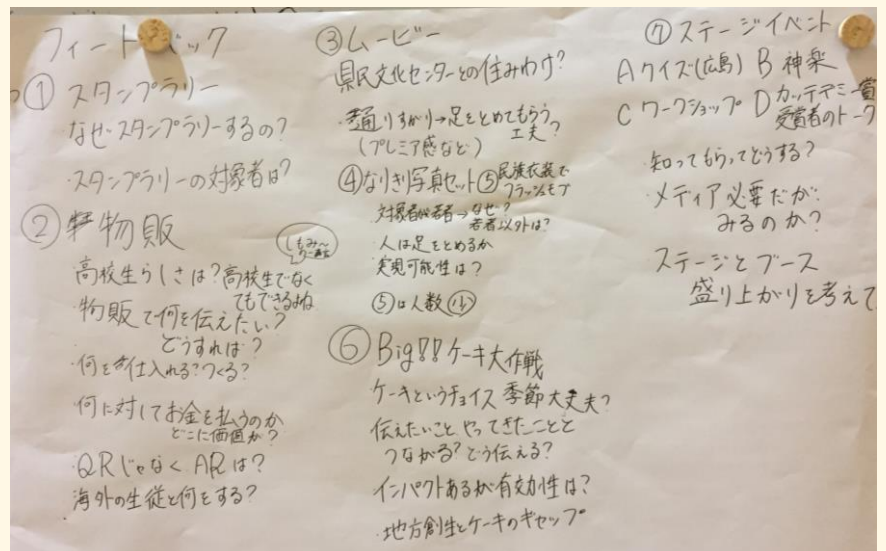
- スタンプラリー
- 物販
- ムービー
- なりきり写真セット
- 民族衣装でフラッシュモブ
- Big!! ケーキ作戦
- ステージイベント(クイズ, 神楽, ワークショップ, カッテデミー賞トーク)

ステップ2 事務局に説明→フィードバック

とにかく，早くフィードバックをもらいたいということで，並んで順番待ち。

次々と紹介されるアイデアに事務局もびっくり。

いただいたフィードバックを基に練り直し。



シャレオPJTチーム グローバルスクール企画案作成

ステップ3 企画案の見直し①

7つのアイデアの見直しです。

「主ORサブ」、「対象者」、「目的」、「関連企画」、
「共通ストーリー」の項目で整理し、企画を絞っていきます。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
主ORサブ	47	47	47	47	47	47	47
対象者	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生
目的	国際交流の促進	文化交流の促進	文化交流の促進	文化交流の促進	文化交流の促進	文化交流の促進	文化交流の促進
関連企画	全部						
共通ストーリー							

ステップ4 企画案の見直し②

東北スクールのOB/OGからのアドバイスを受け、
さらに、企画案を「有用性」、「実現可能性」、
「革新性」の観点から、自分たちで評価しました。

ステップ5 企画案を絞り、ブラッシュアップ→現段階の案完成

★伝える企画

1 モザイクアート

活動写真を一枚のアートに。
海外の生徒の写真も含める。

最終形態は地域のつながりを伝えられる写真にする。

ステージ付近に展示
→対象者活動への積極的な参加意欲を高めたい。

2 スマイルリース

平和の象徴オリーブリース

・書いてもらう人には…
2030年、持続可能な未来のビジョンを明確にしてほしい。

・見る人には…
平和やHOMEを感じてほしい。

★客引き企画

1 物販

・エリアスクールに関わる物品や食品や
パートナー校の特産品を販売するとともに
自分たちの活動を紹介する。
(食品、物、手づくりの品を売るwithパートナー)

・活動の報告、県民センターの宣伝、
デジタルQRコードを使う

・販売するもの(海外スイーツ, けん玉)

2 フラッシュモブ

・検討中

★ステージ企画

1 神楽

2 広島クイズ

3 カッテデミー賞

4 リフレクションムービー

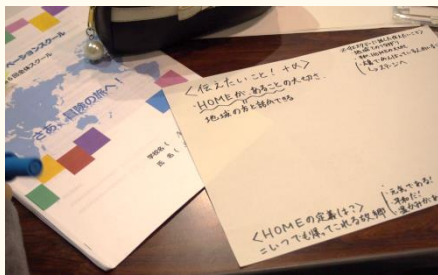
5 ダンス・

民族衣装のファッションショー

・興味を持ってもらう
・地域の良さを発見してもらう
・来場者に世界を身近に感じてほしい

生徒のリフレクションより

今回の全体スクールでの1番の学びは、グローバルスクールでは私たちはきっと何でもできるし、何をしてもいいと気づいたことです。企画を考える上でわからないことだらけで、何を考えればいいのかもわからなくなったし何を初めに考えればいいのか、誰に聞くのが正解なのかもわかりませんでした。今思っていることは突拍子もないことなのか、口に出してみてもいいのか、と戸惑うこともありました。でもたぶん私たちのグローバルスクールの可能性は自分たちで十分広げることができて、私たちは今の私たちの常識で企画を考えなくていいのだと思います。やるべきことと伝えたいことだけをしっかり持っていればまだ誰もやったことがないことでもやっていいし、絶対に誰かが助けてくれます。そのことに気づけた全体スクールでした。



今回の全体スクールでの学びはレジリエンス、粘り強く議論していくということです。今回新しくエリアを越えてチームを編成し、まだなんとなくしか想像できていなかったグローバルスクールの企画について徹底的に話し合いました。最初は新しいチームになんだか話づらさを感じたり、どのように進めていったら良いか悩んだりしました。しかし、一から企画を作る困難を前に、粘り強く考え続けなんとか企画の形を作ることができました。途中でなげやりにならず、最後まで考え抜けたことは大きな成長になったと思っています。

今回の一番の学びは、ルール決めの大切さに気付けたこと。一番の成果は自分の立ち位置を確立できたことです。

リディラバ安部さんのWSの初めに、「準備不足でした。」や、「ムリ～できな～い。」などは言うてはならないなどのルールが明確にされました。このルールによってWSにメリハリが生まれていました。確かに、私のクラスにも、近所の公園でさえも誰もが見えるところにルールが示されています。ルールは成功の秘訣になると分かりました。次に、私は、リーダーでもなく、サポート役でもない自分の立ち位置に迷っていた時もありました。でも、東北OGの方からアドバイスをいただいて自分の立ち位置が分かった気がします。

全体スクールが終わるたびに一回り大人になれたと思うのは私だけでしょうか。拳がっているリフレクションを見て、必死に頑張るリーダーと必死についていくフォロアーの関係が築かれているのがHISの良いところだと感じます。素敵な仲間と過ごせる時間を大切にしていきたいです。リーダー一会のみんな、本当にありがとう！

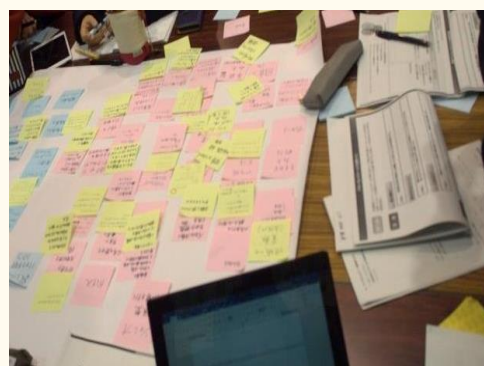


今回の全体スクールを通して思ったことは自分やHIS全体がまだまだ甘えがあるなということです。東北スクールの皆さんの話を聞いて、自分たちはまだまだ今の広島や世界の問題を自分の問題としてとらえられていなかったなと感じました。

もちろんフィールドは違えど、同じ高校生がしていることとして、まだまだ自分たちにはできるんじゃないかなって思いました。

そのために私は自分の立場でしかできないことを進んでしていきたいです。自分の立場でしかできないことということが、今のところあまり見えていないので、次の全体スクールまでにリーダー会や、エリアの活動を通して見つけたり、もっともっと周りにいる大人からアドバイスをもらったりしていきたいです。そして、このチームを来年の夏に「やってよかった！」と誰もが思えるようなチームにしていきたいです。

今回の全体スクールで、僕は「プレゼン」の難しさ、大切さについて学ぶことが出来ました。いつもは先輩が簡単そうにやってくれていたのが、「僕もすぐにできるな」と思っていました。ですが、いざ自分の番になったときに話す順番や内容が全然まとまらなくて、メチャクチャなプレゼンになってしまいました(1回目)。2回目のプレゼンでは先輩から「メモを取る」といいことや、「一番伝えたいキーワードを文頭や文末に置くと印象に残りやすい」ことをフィードバックとしてもらえることが出来ました。このアドバイスを次に生かして次のプレゼンは大成功させたいと思いました。



今回はかなり生徒リーダーを中心に3日間が回っていたと思います。でもあまり滞りなく進めることができたのでまだまだ自分たちの可能性を実感することができました。また、企画案も考えることができ、これからが大変な時期になってくることが予想されるので、一人一人が自分の役割を意識し確実にその役割をこなすことが求められると思います。各自が常に同じ方向を向いて目的・目標を共有することで地盤が固められるという土台がしっかりしていると目的や目標が違った話し合いにならなくてすむと思います。だから、確実にこの話し合いは何を目的として話しているのかを念頭に置きつつ話し合いをすることが大事だと思います。それぞれのプロジェクトチームで協力しなければいけないことなので横のつながりを意識しプロジェクトを成功させましょう。



2015-2017

**Hiroshima
Innovative School**

supported by OECD